



# Sun Fire™ エントリーレベル ミッドレンジシステム ファームウェア 5.20.0 ご使用にあたって

---

Sun Microsystems, Inc.  
[www.sun.com](http://www.sun.com)

Part No. 819-5584-10  
2006 年 4 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, docs.sun.com, Java, OpenBoot, Sun Fire, SunStorEdge は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法(外為法)に定められる戦略物資等(貨物または役務)に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun Fire Entry-Level Midrange Systems Firmware 5.20.0 Release Notes  
Part No: 819-5084-10  
Revision A



# 目次

---

Sun Fire エントリーレベルミッドレンジ (E2900/V1280/Netra 1280/Netra 1290) システムのファームウェアのマニュアル	1
5.20.0 Release で導入された機能	2
サポートされているシステム	2
サポートされているボードの種類	2
5.20.0 でさらに拡張された可用性機能	2
5.20.0 でのコマンドの追加または変更	2
一般的な情報	3
エントリーレベルミッドレンジシステムの要件	3
Solaris 8 および Solaris 9 オペレーティングシステムでのみサポートされる Sun Fire Link インターコネクト	4
ファームウェアのアップグレードおよびダウングレード	4
Sun Fire エントリーレベルミッドレンジシステムの既知の制限事項	4
POSIX タイムゾーンの 2007 年の移行日の変更 – 米国の 2005 年エネルギー政策法 (バグ ID 6369788)	4
OBP の show-post-results と ScApp の showboards で出力される I/O タイプが一致しない (バグ ID 6305912)	5
ファームウェアのアップグレードによって接続形式が変更される (バグ ID 5060748、6255332)	6
sgcn_output_line(): OBP console blocked; message data lost (バグ ID 4939206)	6

電源障害によって SEEPROM の内容が破壊される場合がある (バグ ID 5093450) 6

異なる速度の USIV+ ボードで DR を実行したあとでも、prtdiag で以前の USIV+ プロセッサの速度が表示される (バグ ID 6372446) 7

cfgadm unconfigure N0.SB0::mem の実行後、panic:recursive mutex\_enter の次に panic:panic sync timeout が表示される (バグ ID 6379866) 7

SBBC Reset Reason(s): Peer Reset, Watchdog Reset (バグ ID 6412546) 7

# Sun Fire エントリーレベルミッドレンジシステムファームウェア 5.20.0 のご使用にあたって

---

本書では、Sun Fire E2900、Sun Fire V1280、Netra 1280、および Netra 1290 システムのファームウェア 5.20.0 release に関する最新情報と、新しい機能および変更された機能について説明します。

本書では、次のトピックについて記載します。

- Sun Fire エントリーレベルミッドレンジ (E2900/V1280/Netra 1280/Netra 1290) システムのファームウェアのマニュアル
  - 5.20.0 Release で導入された機能
  - 一般的な情報
  - Sun Fire エントリーレベルミッドレンジシステムの既知の制限事項
- 

## Sun Fire エントリーレベルミッドレンジ (E2900/V1280/Netra 1280/Netra 1290) システムのファームウェアのマニュアル

- 『Sun Fire エントリーレベルミッドレンジシステム管理マニュアル』  
(Part No. 819-5593-10)
- 『Sun Fire エントリーレベルミッドレンジシステムコントローラコマンドリファレンスマニュアル』  
(Part No. 819-5589-10)
- 『Sun Fire エントリーレベルミッドレンジシステムファームウェア 5.20.0 ご使用にあたって』  
(Part No. 819-5584-10)

---

## 5.20.0 Release で導入された機能

この節では、Sun Fire エントリーレベルミッドレンジシステムでの 5.20.0 release の新機能について簡単に説明します。

### サポートされているシステム

5.20.0 release では、新しい Netra 1290 システムをサポートします。Netra 1290 システムのファームウェアリリースの最小要件は 5.20.0 です。

### サポートされているボードの種類

5.20.0 release は、UltraSPARC IV+ CPU/メモリーボードをサポートします。UltraSPARC IV+ CPU/メモリーボードを使用したシステムのアップグレードの詳細は、『Sun Fire E2900/V1280 UltraSPARC IV+ 1.8GHz CPU/メモリーボードのアップグレード要件』(819-6708-10) および『Sun Fire E2900 システムサービスマニュアル』(817-6475) または『Sun Fire V1280/Netra 1280 システムサービスマニュアル』(817-4511) を参照してください。

### 5.20.0 でさらに拡張された可用性機能

ファームウェア 5.20.0 release を、Solaris 10 オペレーティングシステムが動作しているドメインを持つシステムで使用すると、Solaris が検出したハードウェア障害イベントに関する情報が提供されます。この情報は、Solaris ソフトウェアによって取り込まれてからシステムコントローラに伝達されます。システムコントローラは、自動診断 (AD) およびドメイン (DOM) のイベントメッセージを通じてこの情報を報告します。

### 5.20.0 でのコマンドの追加または変更

5.20.0 では、次の SC コマンドが変更されました。

- `setupsc - Log Reset` および `Verbose Data Reset` オプションの追加。

これらのコマンドの詳細は、『Sun Fire エントリーレベルミッドレンジシステムコントローラコマンドリファレンスマニュアル』の説明を参照してください。

# 一般的な情報

## エン트리レベルミッドレンジシステムの要件

Sun Fire E2900 システムでは、5.17.0 以降のファームウェアと、Solaris リリースの最小要件として Solaris 8 2/04 以降または Solaris 9 4/04 以降のオペレーティング環境が必要です。UltraSPARC IV+ CPU/メモリーボードまたは PCI-X I/O ボード (あるいはその両方) を搭載した Sun Fire E2900 システムおよび Sun Fire V1280 システムでは、ファームウェアの最小要件として 5.19.0、Solaris リリースの最小要件として Solaris 10 または Solaris 9 オペレーティングシステム (使用可能な場合) の互換リリースが必要です。

表 1 エントリーレベルミッドレンジシステムでサポートされるファームウェアおよびソフトウェアの最小バージョン

システム	ファームウェアリリースの 最小要件	Solaris 8 オペレー ティングシステムの 最小要件	Solaris 9 オペレー ティングシステムの 最小要件	Solaris 10 オペレー ティングシステムの 最小要件
Sun Fire E2900 システム	5.17.0 ファームウェア	Solaris 8 2/04	Solaris 9 4/04	Solaris 10
Sun Fire V1280/Netra 1280 システム	5.13.001x ファームウェア 5.17.0 ファームウェア	Solaris 8 2/02 Solaris 8 2/04	Solaris 9 4/03 Solaris 9 4/04	Solaris 10
Netra 1290 システム	5.20.0 ファームウェア		Solaris 9 9/05	Solaris 10 1/06

ミッドレンジエン트리レベルシステムの一部のハードウェアコンポーネントでは、次に示すとおり、ファームウェアバージョンの最小要件を満たす必要があります。

- UltraSPARC IV CPU/メモリーボードには、5.17.0 以降のファームウェアが必要。
- UltraSPARC IV+ CPU/メモリーボードには、5.19.0 以降のファームウェアが必要。

注 – SC V2 が構成されているエン트리レベルミッドレンジシステムで、UltraSPARC IV CPU/メモリーボードを取り付けていない場合は、5.17.0 以降のファームウェアリリースを 5.13.001x にダウングレードできます。ただし、これらの以前のリリースでは、5.17.0、5.18.0、5.19.0、または 5.20.0 で導入された機能がサポートされないことに注意してください。

## Solaris 8 および Solaris 9 オペレーティングシステムでのみサポートされる Sun Fire Link インターコネクト

5.20.0 ファームウェアで Sun Fire Link インターコネクトを使用するには、Solaris 8 または Solaris 9 のいずれかのオペレーティングシステムを使用します。

## ファームウェアのアップグレードおよびダウングレード

ファームウェアの更新手順 (アップグレードおよびダウングレード) は、『Sun Fire エントリレベルミッドレンジシステム管理マニュアル』に記載されています。

---

## Sun Fire エントリレベルミッドレンジシステムの既知の制限事項

この節では、重大な影響を及ぼす可能性のあるバグについてのみ説明します。README ファイルには、Sun の内部だけで検出されたバグも含めて、すべてのバグの一覧が記載されています。

## POSIX タイムゾーンの 2007 年の移行日の変更 – 米国の 2005 年エネルギー政策法 (バグ ID 6369788)

タイムゾーンによっては、新しい夏時間 (DST) の規則が 2007 年 3 月 11 日 (日) から適用されます。たとえば、2006 年の太平洋標準夏時間 (PDT) は 4 月 2 日 (日) から始まり、10 月 29 日 (日) に終了します。2007 年の PDT は 3 月 11 日 (日) から始まり、11 月 4 日 (日) に終了します。

DST の規則は、米国の 2005 年エネルギー政策法によって変更され、2007 年から変更の適用が開始されます。これらの変更の一部は、オーストラリアのコモンウェルスゲームにあわせて 2006 年に実施されました。



注意を促すために、システムコントローラ (SC) によって、2007 年 1 月 1 日から 1 日に一度、再起動を求める警告メッセージが SC コンソールに出力されます。次に例を示します。

```
WARNING: SC was booted in year 2006, and SC current year is 2007. Please reboot
the SC to get the current Daylight Saving Time rules.
```

新しい DST の規則をロードするために、2007 年 1 月 1 日から 2007 年 3 月 11 日までの間に SC を再起動してください。

## OBP の show-post-results と ScApp の showboards で出力される I/O タイプが一致しない (バグ ID 6305912)

エン트리レベルミッドレンジシステムの一部のボードについて、OBP と ScApp とで異なる I/O タイプが報告されることがあります。次に例を示します。

POST は、I/O ボードを PCI+ と示しています。

```
...
/N0/IB6 On PCI+ I/O Board      Active  Passed
...
```

ScApp の showboards コマンドは、同一の I/O ボードを PCIX と示しています。

```
...
Board 6, Type: PCIX IO
port 24 - Status = Pass, Type: PCIX IO
port 25 - Status = Pass, Type: PCIX IO
...
```

どちらが正しいか不明な場合は、ScApp で報告されたボードタイプを信頼してください。

## ファームウェアのアップグレードによって接続形式が変更される (バグ ID 5060748、6255332)

エントリレベルミッドレンジシステムのファームウェアを 5.17.x、5.18.x、5.19.x、または 5.20.x から 5.13.x に更新したあとで接続形式を変更した場合、そのあとでファームウェアを 5.17.x、5.18.x、5.19.x、または 5.20.x に更新して戻すと、5.13.x で新たに選択した接続形式は保証されません。ファームウェアを 5.13.x から 5.17.x、5.18.x、5.19.x、または 5.20.x に更新すると、5.13.x で変更する前に 5.17.x、5.18.x、5.19.x、または 5.20.x で使用していた元の接続形式が復元されます。

**回避方法:** システムの安全性を確保するために、`setupnetwork` コマンドを使用して、接続形式を明示的に設定してください。

```
sgcn_output_line(): OBP console  
blocked; message data lost (バグ ID  
4939206)
```

Solaris ソフトウェアまたは OpenBoot PROM からのデータの提供が、システムコントローラによるコンソールへのデータの書き込みよりも速い場合は、表示されないコンソールメッセージが存在することを示すメッセージが表示されます。

**回避方法:** ありません。

## 電源障害によって SEEPROM の内容が破壊される場合がある (バグ ID 5093450)

セグメントの追加処理中に電源障害および SC の再起動が発生すると、再起動時に 1 つ以上の SEEPROM セグメントが破壊される場合があります。ただし、このようなエラーメッセージが表示された場合でも、ドメインの可用性には影響ありません。

**回避方法:** ありません。

## 異なる速度の USIV+ ボードで DR を実行したあとでも、prtdiag で以前の USIV+ プロセッサの速度が表示される (バグ ID 6372446)

UltraSPARC IV+ CPU/メモリーボードが搭載された Sun Fire E2900 システムで、プロセッサの速度の変更を含む DR 操作のあとに prtdiag コマンドを実行すると、このコマンドが誤った速度を報告することがあります。

**回避方法:** picld デーモンを終了し、再起動してください。次に例を示します。

```
# pkill picld
# /usr/lib/picl/picld
```

## cfgadm unconfigure N0.SB0::mem の実行後、panic:recursive mutex\_enter の次に panic:panic sync timeout が表示される (バグ ID 6379866)

UltraSPARC IV+ CPU/メモリーボードを使用している一部のシステムで、次のコマンドを実行すると、システムパニックが発生する可能性があります。

```
# cfgadm -c unconfigure N0.SB0::memory
```

**回避方法:** 使用している Solaris OS に適切なパッチを適用してください。

## SBBC Reset Reason(s): Peer Reset, Watchdog Reset (バグ ID 6412546)

SC に対して複数の遠隔接続 (SSH など) を開くと、SC のリセットが発生する可能性があります。ドメイン再構成 (DR) 操作の実行と同時に複数の遠隔接続を実行している場合には、クラッシュが発生する可能性が高くなります。

**回避方法:** 特に DR 操作中には、SC への遠隔接続の数を制限してください。

